

◆ 会議録（概要）

1 開会（13時30分）

2 あいさつ

3 議題

(1) 市民交流ひろばの設計について

(2) 管理運営計画について

《質疑》

○設計について

委員：設計に関する議論はされないのか。

会長→設計については、報告事項となっている。特段あれば。

委員：先週大型公園ワークショップがあり、そこでの意見を伝えたい。

- ・太陽のひろばの芝生とクレーの間にある花壇で、イベント等でクレーのひろばを駐車場として使用する場合に、子どもが飛び出したりすることがない工夫をして欲しい。
- ・遊具の周りなどは砂とのことだが、砂だと汚れたり雨が降った後遊べないので、ウッドチップなど落ちてても痛くないものにして欲しい。
- ・砂場の管理はどうするのか。

市→ご意見として伺います。（実施設計を進める中で対応を検討します。）

委員：

- ・トイレの洗面台は全て同じ高さなのか。同じ高さならば、踏み台などを設置し、子どもが使えるようにして欲しい。できれば、3つのうち1つは低くして子どもが使えるようにして欲しい。
- ・植栽について、子供が喜ぶトチの実がなるトチの木を植樹して欲しい。
- ・アカシヤの花が匂いも良く、花は食用として使えるので、子どもに教えるためにも植樹して欲しい。
- ・沢山の種類の植栽が計画されているが、統一性を持たせた方が良いのでは。

委員：アカシヤはトゲがあるが良いのか。

本物のアカシヤは暖かい地方のもので、雪が枝にあるだけで枯れてしまう。

この周辺にあるのは、ニセアカシヤである。また、繁殖力もあるので公園の植栽には適さないのではないか。

委員：アカシヤの花はアレルギーの原因ともなっている。

いろいろな思いもあるが、10万都市の代表として私たちは検討をしている。

それぞれ専門の方々が設計をしているので、植栽計画は専門の方々に任せた方が良いのではないか。

委員：図面にある植栽の高さは、いつの時点での高さか。

初めからその高さを植えると、高いイメージがある。

市→植栽するときの高さです。

委員：現在計画している樹木の高さは、そんなに高い木ではないと思う。

委員：私もそんなに大きい木だとは思わない。

これだけの大きなひろばを構成する樹木としてはいいのではないか。

委員：芝生の中央には1本しか植樹しないのか。イチョウの木も良いのでは。

委員：芝生の中央で日陰をつくろうとしているのならば、樹形を考えると現在計画しているケヤキがいいのではないか。

委員：こもれびの森で遊んでいる子どもたちがアプローチ園路に行かないような柵などを検討して欲しい。アプローチ園路に子どもが飛び出す危険がある。

市→アプローチ園路の両側には、杭を打ちロープで柵を設置する予定。

委員：ロープだと子どもがくぐってしまう。

市→いろいろな指摘はある。子ども達を守るには保護者としてどのようにしなければいけないのか、この公園をどのようにしたいのか、そのような事を念頭に置いて考えていくのが、市民協働である。危険を避けるため考えられる全ての事案に対策をとると、無機質なものになってしまう。意見としてはお聞きするが、どこまでできるか検討はする。

委員：いろいろな親がいる。親がうるさい時代である。何を言われるか分からないので、皆さんの念頭に入れておいて欲しい。

委員：こもれびの森の遊具配置について、「ジャンプタッチ」というものがある。何の目的で設置するのか分からないので、利用方法を表示してあげた方が良い。子どもが雲ていとして遊ぶことも考えられる。

公園と言うと食べ物屋が考えられる。ここには、そういったものを置いてはいけないのか。

市→健康遊具の利用方法について、こもれびの森の北側にサインを掲示する。

・公園内への屋台については、保健所の許可が必要であり、市の方へ使用許可申請を提出いただければ許可ができる。管理運営計画を立てる中でご検討いただきたい。

○管理運営計画について

委員：市民交流ひろばワークショップに参加する方々は管理運営母体組織の一員となるのか。

市→市民交流ひろばワークショップは「市民参加」「市民協働」をどのように作り上げるか、

行動者としての体制づくりを議論していただくように考えている。

委員：ワークショップ参加者で議論していくうちに、市で考えている管理運営母体組織から法人化の構想が実現しなくなる可能性もあるということか。

市→ワークショップ参加者が管理運営母体組織のメンバーになっていただくのがベストである。ワークショップ参加者が最初から理想のステップ2(法人化)になる可能性もあるが、その前段としてステップ1の管理運営母体組織を立ち上げ、最終形は、法人化を目標にしたい。

委員：ワークショップを重ねるうちに具体的な体制ができてくれば、組織として活動するのか。

市→最初から管理者や責任者などの人選ができ、体制が整えば良いが、総括責任者の役割が重要で難しいのではないかという意見が前回の検討委員会であった。今回、お示したのは、まずはワークショップを立ち上げコーディネート役や責任者を決め、組織を徐々に発展させていきたいと考えている。

委員：ワークショップ参加者が管理運営母体組織を組織していく。管理運営母体組織に必要な経費は、市が負担するとのことだが、この組織の総括責任者がいない場合は、市の方でやっていただけるのか。

委員：地元の自治会で花を植えてみようとして気軽に参加する場合、わざわざ母体組織に加入しなければいけないのか、または気軽に母体組織に申込んでやらせてもらうのか。管理運営母体組織はボランティア参加者をコントロールするためだけの組織の方が良いのでは。

市→管理運営母体組織は、実際にボランティアとして参加していただける方々をコーディネートし、市民活動サポートセンターとも連携することにより、調整役としての機能を考えている。市民グループや自治会などは必ずしも管理運営母体組織に加入しなくても良い。

委員：検討する組織と参加する組織は別とのことだが、検討組織は管理運営体制について、こうあって欲しいと検討する。ワークショップはコストが発生するとのことだが、ボランティアとしてワークショップに参加するのではないか。管理運営体制はいつまでにつくる必要があるのか。

市→ワークショップは、市民交流ひろばが「市民参加」「市民協働」による魅力あるひろばづくりのための体制についてご検討いただくため、このワークショップは無償で考えている。管理運営母体組織では、必要な経費について協定等を締結していきたい。管理運営体制は、ひろばの開設予定の平成25年秋までにつくりたい。

委員：市民・各種団体組織・企業などによる管理運営母体組織の立ち上げ、市とアダプト制度事業協定を締結するとはどういうことか。

市→「市民、区・学校・PTA・青少年育成会・NPO団体等・民間企業・個人事業者」と「管理運営母体組織」と「市」が3者協定を締結することである。

委員：「市民協働」で行っているのは佐久市が初めてなのか。

市→市民交流ひろばは特に、「市民協働」を主体に維持管理・運営管理を行っていききたい。市内にもいくつも公園があるが、市民が主体となってイベント等を行うひろばがないため、市民が主体となって、管理・運営できるひろばを佐久市の中心部につくっていききたいと考えている。

委員：市で考えている、管理運営母体組織の発展ができれば素晴らしい。

委員：指定管理者制度は、長野市の若里公園や南長野運動公園でNPOやシルバー人材センターが行っている。国営アルプスあずみの公園でも指定管理者による管理が行われている。

委員：指定管理者による管理方法は検討されないのか。

市→平尾山公園については、佐久平尾山開発という民間会社に指定管理者として維持管理・運営管理をしていただいている。市民交流ひろばは、市民団体が中心となった管理運営をしていきたい。

委員：この検討員会では、管理についてボランティアやアダプトシステムを採用するということが意見がまとまったと思う。管理運営母体組織がいずれは法人化すれば、市民協働ではなくなるのではないか。管理運営母体組織がそのままの形で進めば良いのでは。

市→管理運営母体組織が法人化するという事は、母体組織に参加する市民団体が、そのまま法人化することである。

会長：管理運営については、市からの提案の内容で良いでしょうか。

了承

会長：前回の委員会で、トイレを有料化したほうが良いという意見が出たがどうか。

委員→きれいにするには有料化もいいのではという趣旨。

会長：みなさんできれいに使用していくということでよろしいでしょうか。

委員：4月から活動するワークショップでも管理運営について検討するが、この検討員会での検討内容と同じにならないのか。

市→この検討員会は受益者として管理運営の体制をご検討いただいている。ワークショップでは実際に行動していただく方々が、どこまで自分達が携われるのか、携わるにはどのような方法があるのかをご検討いただく。この検討員会の委員の皆さんの中でも、

ワークショップに参加していただいても構いません。

その他

・本日の会議をもちまして、今年度の会議は終了となります。

7月から計6回にわたり、ご議論を頂きまして、誠にありがとうございました。

次回の検討委員会についてですが、来年度の始めに年間スケジュールを立てまして、改めて委員の皆様方にご連絡する予定であります。

ご検討いただく内容につきましては、「実施設計の最終報告」と本年度に引き続きまして、「管理運営計画」についてご検討頂きたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。なお、本日の会議の中でも、お話しがございましたが広報3月号におきまして、実際に管理運営に協力して頂ける市民の皆さんなどを募集し、4月から「市民交流ひろばワークショップ」を開催します。このワークショップでは、実際に管理運営をするための詳細について、話し合いをして頂く予定です。

今後、検討委員会におきましても、管理運営の骨格となる仕組みなどについて、委員の皆さんに、ご議論をお願いしていくようになりますので、よろしく申し上げます。

委員：市民活動サポートセンターは、いろいろなボランティア団体が登録をし、ご活用頂けるようにしたい。

4 閉会（15時30分）